

核医学情報の標準化： 核医学部門の情報管理戦略ガイドラインの提案へむけて

Towards the Proposal of Guideline for Information Management Strategy
in Nuclear Medicine Department

代表：奥 真也(埼玉医科大学総合医療センター・東京大学)

メンバー：竹花 一哉(関西医科大学)	尾川 浩一(法政大学)
河邊 譲治(大阪市立大学)	巽 光朗(大阪大学)
宮内 勉(とやま PET 画像診断センター)	
松田 恵雄(埼玉医科大学総合医療センター)	對間 博之(大阪市立大学)
長谷川雪憲(大阪大学)	神宮司公二(北里大学病院)

背景と目的 「核医学情報の標準化ワーキンググループ」では、平成 19 年度から二年間の活動を行ってきた。核医学の臨床現場で用いられる情報の現状を把握し、今後標準化を進めていくための問題点と解決への方向性を明らかにすることがその目的である。

核医学部門において、医療情報の標準化は、つねに重要なテーマであることは認識されつつも、実際の着手が遅れているという現実がある。現代の医療においては情報の共有が重要なテーマ性を持っている。医療機関の受診スタイルとして複数の専門病院にかかることも増え、病診連携、患者への情報提供などの電子的な医療情報の流通への社会的需要が高まり、また、医療制度面でも、特定健診制度、医療費包括支払制度(DPC)を含むレセプト改革など、医療情報の活用が前提となっている設計が目立つ。

こういった状況にもかかわらず、核医学に関する情報が、往々にして、他の領域とは異なった特殊なものとして、放射線部門全体ないし病院全体の医療情報管理と整合性を図らずに放置されているケースは多い。このことは大いに憂慮すべきである。

本ワーキンググループでは、参加する 5 大学の

核医学部門の診療と情報管理の実際を把握し、そこから顕われる医療情報管理の問題点を解決すべく、情報管理の必須要件に関するガイドラインを提言することを目指した。本ワーキンググループにおける検討においては、Integrating the Healthcare Enterprise (IHE) を含む種々の医療情報標準化技術を考慮し、いくつも現存する医療情報の標準化の体系の中で、核医学情報があるべき姿をなして確かに位置づけられていくための戦略を明らかにすることを重視する立場をとった。

活動の進行と成果 平成 19 年度から二月に一度程度の全体ミーティングないしは一部メンバーによる会合を開催し、現状の核医学部門の医療情報の取り扱い実務に存在する問題点を明確化し、これに対する解決法として、医療情報システム要件や、医療情報システムを有効に活用する現場レベルにおけるワークフロー改善についての検討を進めた。これに併せる形で、現在さまざまな場所において輻輳的に策定が進められている医療情報の標準化技術にあって、われわれが問題とする核医学部門に関連するものについて、策定推奨される範囲、考えられる策定手順などをまとめた。

具体的成果 ワークフローについては 5 大学 (埼玉医科大学, 関西医科大学, 大阪大学, 大阪市立大学, 北里大学) において共通および共通でない実務手順, 画像システムスペキュレーション, 臨床ワークフロー分析を行い, これについては, 平成 19 年秋の仙台における第 47 回日本核医学会学術総会においてワーキンググループ報告および同報告とは独立して行った行事において発表した。また, 情報管理の必須要件を整理したガイドラインとしての策定項目案を提示し, これを同学会および平成 20 年春の日本医学放射線学会総会, 平成 20 年秋の第 48 回日本核医学会学術総会のワーキンググループ報告において発表した。

成果の発表 本ワーキンググループで作成した核医学部門における医療情報管理の必須要件の推奨ガイドラインについては, 日本核医学会機関誌 *Ann Nucl Med* に投稿を予定し, 現在その作業中である。表 1 にその項目(案)を示す。

まとめ 日本核医学会として, 今後医療情報の標準化およびその運用に関する問題はより重要性が増してくることは確実なものと思われる。現段階でワーキンググループによる検討としてまとめたこの戦略ガイドラインが, さらに大きな枠組みで議論されて昇華され, 核医学の将来の発展に寄与することを強く願うものである。

表 1

核医学情報の取り扱いガイドライン 目次(案)

0. 背景とワーキンググループ設立およびそのミッション
1. 核医学情報の現状分析
 - 1.1 核医学情報の特殊性
 - 1.2 核医学情報の取り扱われ方の現状
 - 1.3 臨床的要請の整理
 - 1.4 フリーソフトに関する問題点
2. 核医学情報取り扱いガイドライン
 - 2.1 オーダーまとめ方に関する推奨
 - 2.2 画像容量, 原本, 取り扱い範囲に関する推奨
 - 2.3 フリーソフトに関する推奨
 - 2.4 現状是認型システム構築
(one to one order)
 - 2.5 現状否定型システム構築
(新規構築ガイドライン)
3. 将来の方向性
 - 3.1 JJ1017NM
 - 3.2 核医学情報の特性を生かしたシステムについて
4. 結語